

次いで、委員長より建立場所を無償にて提供された佐藤棟良フェニックス国際観光株式会社社長、工事担当の山元石材店社長の御二人に感謝状が贈呈され、工事の経過報告を私、田代が行いました。

記念講演会は同場所で行われ、木下和夫宮崎医科大学長が座長となられ、講師酒井シヅ順天堂大学医史学教授のご紹介がなされ「近代日本に於ける医学教育の歴史」と題したご講演を感銘深く拝聴しました。

祝賀会は田中幸稔先生によって司会されました。

意義ある記念式には是非参列したいが、遅れても宜しいだろうかと予告しておられた津村重光宮崎市長が到着され、早速丁寧なるごあいさつを頂き、乾杯の音頭もとって頂きました。酒井シヅ教授と宮崎医科大学第二病理の河野教授とは三重医大の同級生、皮膚科の井上教授とは研修生のと、御一緒だった由で、まるで私は同窓会みたいですよと酒井教授は喜んでおられました。

この宮崎医学所のことは昭和四十二年宮崎市郡医師会史編さん途中から着目し、昭和五十九年宮崎県医史完成のとき、更に同年の宮崎市で行われた第七十九回日本医史学会学術集会で一部を発表するなど、私の永い永い追跡テーマであったのですが、一応の決着をみる事が出来ました。

建立に関しては、県内在住の医師を対象に行いましたところ、二ヶ月余りで予想を越える四百万円近い醸出を頂きました。

諸経費を差引き、百万円位の剰余金が出ました。この残金で「日向に於ける人体解剖最初之地」碑(仮称)を建立するとの賛同を得たところです。

(田代 逸郎)

入澤記念庭園の整備事業を終えて

第八十九回日本医史学会総会が新潟市で開催された折(昭和63年)、会員の方々が当町の西野の入澤邸を訪問されました。

当時、当主は転居され居宅はかなり荒れており、入澤家生家保存の声があがったのはこの頃でありました。なんらかの形で生家の面影を残そうと、町の有志が入澤家顕彰事業実行委員会をつくり、生家の整備事業を行うこととなりました。

中之島町と実行委員会がそれぞれの分担をきめ、総称して「入澤記念庭園」の整備事業ということになりました。

A、中之島町による整備事業

○入澤記念庭園の整地(約八〇〇坪)

○土蔵の修復

○造園と植樹

○東屋とお手洗の新設

(町支出の総整備費約三、二〇〇万円)

B、顕彰事業実行委員会による整備事業

庭園シンボルモニュメントの建立

- (1) 恭平・謙斎・達吉三氏のレリーフ像
 (高さ一・八M 黒ミカゲ銅レリーフ) 彫刻家渡辺利植作製・元新大教授
- (2) 池田謙斎の歌碑
 (高さ一・六M 福島産ミカゲ都)
- (3) 入澤達吉の漢詩碑
 (高さ二・〇M 福島産ミカゲ隆光)
- (4) 書籍の復刻
 (謙斎回顧録・恭平旅日記・雲荘詩存)
- (5) 入澤文書・遺品の収集と保存
- (6) 入澤家資料目録・庭園絵ハガキ

Bの財源については、任意による浄財をあおぎ、これらの整備にあてさせていただきました。対象は医学関係者、親戚、町内有志等であります。寄せられた寄附金の総額は、約一、八〇〇万円であり、医学関係者については日本医史学会・東大医学部・新潟県医師会・新大医学部学生会にお願いをしました。寄附者名と金額については、和紙帳に記入し桐箱に収め永久保存といたしました。各位のご協力を深く感謝申し上げます。

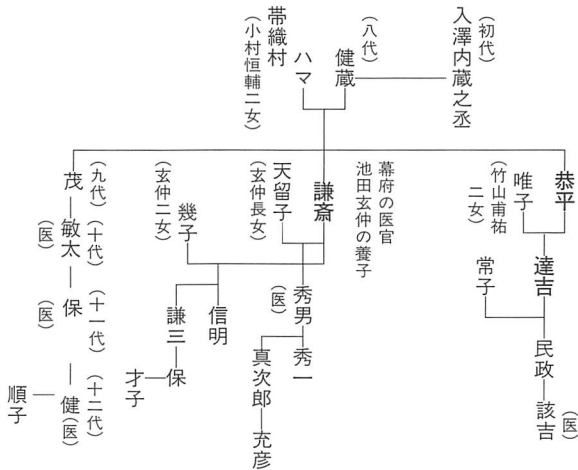
来越の折は、ぜひお立寄りいただきたい。観光パンフ等は、中之島町町民文化センターにご連絡をお願いいたします。

資料 一

入澤記念庭園(二二八ページ参照)

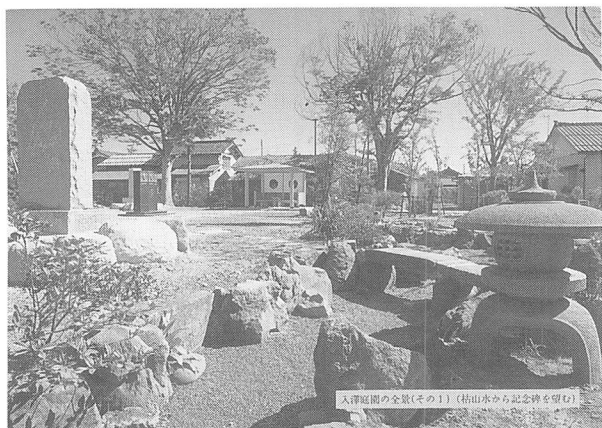
資料 二

入澤一族の略家系図



○恭平・謙斎・達吉三氏の業績について、左に概略を記す。
 恭平は安政三年戸塚静海の門に入り、西洋医学を学び、万延元年長崎に遊学オランダ医師ポンペに師事する。帰国後今町にて開業、北越における洋医の元祖となる。

オランダ医学の教科書および恭平の筆写ノート等が当町に



入津塚園の全景(その1) (枯山水から記念碑を望む)



池田謙吉先生の歌碑



孝平(中央) 謙策(左) 達吉(右) 三氏の像(制作・彫刻家 磯田利雄)
題字「入津家の夫人」中之島町長